

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	若葉保育園
日時	令和7年7月23日

## 1. 活動テーマ

### <テーマ>

5歳児…「葉っぱで何ができるかな！」  
～お気に入りの葉っぱで顔を作ってみよう！～

### <テーマ設定理由>

・季節折々の葉っぱを製作に取り入れて楽しんできた。今は夏野菜、稲を育てている。生長の変化が楽しみな様子で水やりをしながら葉っぱには様々な形があることに気づき「葉っぱが大きくなった」「とんがりがたくさんあるね」など気づきを伝えている。前回のグループでの活動でもお気に入りの葉っぱを見つけて福笑いのように並べて葉っぱで顔を作り楽しんでいたので、今回は「顔」をテーマに活動に取り入れて楽しんだ。

## 2. 活動スケジュール

・夏野菜の葉の生長を観察したり、身近な葉っぱを使い製作・遊び（夏野菜の水彩画・葉っぱの氷）に取り入れて楽しむ。  
・自由画でクレヨンや色鉛筆で自分や友達の顔を描いて楽しむ。  
・お気に入りの葉っぱを見つけて「葉っぱでどんな顔ができるかな」と製作をして楽しむ。  
・顔のパーツを葉っぱで表現し、組み合わせを楽しむ。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・画用紙に顔型（丸の物）を用意する。（様々な大きさや形の葉っぱで遊べるように大きめに作っておく）  
・園庭にある葉っぱを活動前に、子ども達と一緒に採りに行き、その葉を使用する。  
・4つのグループに分けて（4～5人ずつ）で進める。  
・子ども達が想像をしながら製作を進められるように今回は絵の具やクレヨンなどは使用せずに行う。

## 4. 探究活動での実践

### <活動内容>

・少人数ずつで行う。自分で見つけた葉っぱを使い、顔を製作をする。トレイに気に入った葉っぱをのせて「目」「鼻」「口」などに当てはめてみる。  
・完成した顔を写真に撮り記録に残す。  
・一つだけでなく、様々な葉っぱを組み合わせ「どんな顔ができるかな」と友達と一緒にやりとりしながら楽しむ。

## <活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>



(妹とかくれんぼの顔)



(怒った顔)



(自分の顔)



(笑った顔)



(やったぜ！の顔)



(ラッパを吹いている)



### 「妹とかくれんぼの顔」

・トレイに自分で選んだ葉っぱをのせて顔を作る。松の実を見て「これ、何かに使えそう」と言い「鼻にしたんだ」と伝えていた。  
・家族と出かけた場所で「妹とかくれんぼしているところ」と言い最後に葉っぱで顔を隠していた。

### 「怒った顔」

・「僕は怒った顔を作ってみよう」と葉っぱ選びからこだわって進めていた。赤い葉っぱを手にとり「赤い葉っぱで怒っているみたい」と伝えていた。赤い葉っぱを目に見立てて葉をどうやって置くかを考えていた。葉を斜めにさせて「これは怒っている顔だよ」と満足げに伝えていた。

### 「自分の顔」

・松の実を気に入って「先生、これちぎってもいいの？」と言い、一本ずつ抜いて目や鼻の形を描いていた。口の中に歯があるのを松の茎で表現していた。髪の毛は顔の形に合わせて曲がった枝付きの葉を自分で選んで「いいね」と伝えていた。出来上がると同じ顔をみせて「こんな顔だよ」と嬉しそうに伝えていた。

### 「笑った顔」

・唇を赤い葉っぱで表現して「笑ってかわいくしたいな」と言う。トウモロコシのひげを選んで「これを髪の毛にしたい」と手で丸めたり、広げて作り上げた。「髪飾りだよ」ととうもろこしのひげでリボンを作る。

### 「やったぜ！の顔」

・自分のお気に入りの葉っぱを選んで組み合わせている。猫じゃらしをひげのようにする。保育士が「だれ作ったの？」「鬼ごっこをして” やったぜ” の顔だよ」と伝えていた。

### 「ラッパを吹いている」

・すぐにお気に入りの葉を手にとり組み合わせ始めていた。花を口にして「これは口？」と聞くと「そうだよ、こうやってラッパを吹いているんだ」と伝えていた。鼻は2種類の葉を上手に組み合わせれていた。

## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

・自由画や粘土遊びの中で、友達や家族、動物など顔を上手に表現して楽しんでいる。夏祭りの神輿作りでは「葉っぱの王様と妖精」を製作して楽しんだ。  
・夏野菜の生長を通して「葉っぱの形は面白い」「こんなふうになくなっていくんだ」と気づきもたくさんあった。今回は一番身近な葉っぱを使い、葉の形を楽しめるように活動に至った。  
・「顔」というと子ども達は身近な友達や家族、楽しかった場面の表情などを思い描いて、一人ひとり作り上げていた。始まりは様々な葉っぱを福笑いのように当てはめて「いいね」「ちがうな」など友達とのやりとりを楽しんでいた。子ども達が集中していたので、保育士が言葉をかけるタイミングは気がついた。  
・目にはまつ毛があるなど細かな部分を表現したいという思いの中では葉っぱでは少し難しさも感じていたようだった。  
・顔の完成がゴールではなく、福笑いのように自分で選んだ葉っぱを友達と会話をしながら、思い出話をしながら、置く位置や向きを工夫したり、時にはちぎって理想の形を作ろうとすることが今回は大切な経験となったように感じた。  
・これから季節が変化していく中で、また夏の葉っぱから秋の葉っぱを観察したり、触れたりしながら子ども達からの発見を楽しんでいきたいと思う。